

日 時：2008 年 12 月 5 日（金）18：30～20：30

会 場：練馬ボランティア・市民活動センター会議室

## 1. 常務理事挨拶

地域福祉活動計画において今後社協が目指すべき方向性として、「社協を取り巻く社会福祉の動向」との比較において意見をもらいたい。今日は、区から係長が出席している。現在区では、地域福祉計画の見直しを行っており、見直しの委員にも社協からメンバーが入っている。社協の活動計画も区の地域福祉計画との整合性を図り、見直していく必要がある。限られた時間であるがよろしくお願ひしたい。

## 2. 本日の会議の進め方について

- ・ 資料説明
- ・ 委員長より

今年度第 2 回の推進評価委員会を次第にもとづいて進める。次第 6 のビデオで十分に時間をとりたいので手短にお願ひしたい。

## 3. 事業推進 PT および委員会の活動について 資料 1 「事業推進 PT および委員会の報告」

(1) 各プロジェクトチーム・委員会の取り組み内容・経過を資料に基づいて報告

- ・ 相談業務課題調整委員会
- ・ 広報委員会
- ・ 社協拠点を活かしたバザーやリサイクルショップの運営プロジェクトチーム
- ・ 外部研修体系化プロジェクトチーム

(2) 質疑応答

- ・ 「外部研修体系化プロジェクトチーム」2 のマトリックスについて  
市民を地域福祉コーディネーターにするという点では、C 領域から D 領域である部分の人達を自治体で作っていきこうという動きがある。この D 領域をどうするかが課題となる。C の入門講座から D の市民専門家をどう育てていくかが時代の要請である。D はそもそも成り立たないとしていいのか？D に近い委員はどうお考えか？D の層が地域で厚いかが、地域の力になってくる。
- ・ 区のパワーアップカレッジが D の動きが関わってくる。社協職員も関わっており、受講者が C から D になっていく支援をしていくことになると考えている。
- ・ D の領域の人がいないと小さな地域は動かない。研修の位置づけを検討してもらいたい。
- ・ D の領域は、パワーアップカレッジを「研修」と位置すると D につながらないが、地域の人材を育てる広い観点からとらえるとまさに社協の役割であり D となると考える。「研修」という視点だけで捉えているのかということではないか。D の領域を切ってしまうと良いのか？パワーアップカレッジを区がずっとやっていくのか？ということにも関係してくる。社協との連携として取り組むことにより、地域で専門性のある人材が育成できるのではないだろうかという考え方がある。
- ・ 「社協拠点を活かしたバザーやリサイクルショップの運営プロジェクトチーム」のリサイクルショップは作業活動という位置づけになっているのか？社協拠点を活かした独自の取り組みを行っていることもあるのか？  
作業という位置づけである。  
他部署との連携活動とはなっていない。ひとの集まりやすい場所ということで、地域の人が集まる・活動できる場を作るといことが、社協らしい取り組みにつながると捉えている。
- ・ 「相談業務課題調整委員会」拡大ケース検討会について  
社協には、これから見るビデオの内容である「小地域」を耕す機能を持っているということで、地域を重視したコミュニティワークの重要性が問われている。例えば、要介護の認知症のお母さんと統合失調症の子供の「家族」として丸ごと地域で支援していかなければいけない。そのためには、社協は個別支援をやりませんではだめだ。ケースをどうしていくのかを見ていかなければならない。社協職員が個別支援のスキルを持たなくてはならない時代になっている。練馬社協の職員が弱い点。ケース検討会議

を通して、それをどう強化していくかを考えていって欲しい。

#### 4. 地域福祉活動計画の取組状況について 資料2「練馬区社協を取り巻く社会福祉の動向」

(1) 資料にもとづいて説明。

(2) 質疑応答

- ・ 確かにいろいろやっていると感じる、あたりまえといえばあたりまえ。左から右に行く(国の施策から上部の流れから地域の流れ)のと双方のニーズ(施策)で社協が動くことが大切。地域のニーズに対して社協が何かをやっているということが見えてくる。  
結果として国や行政の施策からおりてきてやっていくのと、今地域のニーズがこうだから取りに行く動きでは大分違う。このあたりができるようになれば強くなる。
- ・ 継続して年表を半年に1回なり更新していくと、どう変わっていったかがわかる。
- ・ 社会的弱者に注目するわけではないが、応援していく立場であり大切に考えてきた。先ほど、個別支援は弱いと言われたが、重要と考えてボランティア・市民活動センターやきらら、権利擁護センターでも取り組んできたつもりである。練馬区社協で行っている一番大切なところが、この表にあらわれていると感じた。
- ・ ボランティア・市民活動センターやきらら、権利擁護センターがやってきたことは、点と点で結んでいたのであって、そこに住んでいる人たちを巻き込んでいたのではないということ。そこが弱かったのではないか。先ほどの要介護のお母さんと統合失調症の子供についても視点はあっても、それを支えるパワーをどうもつかが問題。  
行政と協働していかなければできないことである。
- ・ 「高次脳機能障害者の連絡会について」今後の活動としての見通し、社協が関わるきっかけ、施策につながるに動きはあるのか伺いたい。  
連絡会を関係機関と当事者家族で作り、地域に知ってもらい関わってもらいたいと考え、講座を企画した。区の障害者計画の見直しの段階で生の声を聞く機会を持ちたいとの相談があり、連絡会の人を紹介した。障害者施策推進課では、高次脳機能障害者相談窓口を一本化する報告を受けている。
- ・ 実態調査はしているのか?  
していない。実態調査は、所管課である精神の保健相談所か福祉事務所障害者課かが検討されるのではないか?
- ・ 課題に取り組むためには、実態を知る必要があるのではないかと考える。
- ・ 高次脳機能障害者を受け入れているいきいき工房や都の身障センターが行ってきた。就労支援ホームで研修を行い始めている。

#### 5. 区の地域福祉計画について 資料3「地域福祉計画の見直しについて」

(1) 練馬区地域福祉課 地域福祉係 係長

3つのPTに社協からメンバーとして参加している。

(2) 質疑応答

- ・ 2(2) (仮称)福祉人材育成・研修センターの内容について聞きたい。  
介護の人材の育成やスキルアップを図るのが目的。これまでのように事業者の責任ではなく行政の支援が必要と考えている。  
第4期の介護福祉計画で、目玉事業の1つと考えている。介護人材や福祉人材の育成やスキルアップは区でも行うことができるのではないかと考えている。他には、世田谷の例がある。社会福祉事業団は研修のスキルを持っているので、巻き込んでいければと考えている。予算がつくかはわからないが組み込んでいきたい。
- ・ パワーアップカレッジの人材育成は、事業所の人材育成と同じと考えていいのか?  
パワーアップカレッジは、地域の中で福祉のまちづくりの人材育成である。介護従事者のパワーアップとは別である。練馬区には従事者だけでも1万人いるので、重視してやっていきたいと考えている。

#### 6. 今後の社協の方向性について

資料4「地区社協とは(東社協解説版)」, 資料5「小地域福祉活動の取り組み事例」

(1) ビデオ上映(2分半)

(2) 委員長から説明

- ・全国的に地区社協と言われているものは、西高東低で西日本に多い。校区社協とも言われている。共通しているのは、地域の人だけで構成され、市区町村の社協とは別の団体。ある意味では対等な関係で、地域の人たちで構成されている。従来からあったコミュニティのつながりが薄くなり、なんとかしなければならないということがある。なぜ小地域の活動が重要と考えられたか？ 地域で支援が必要な状況をいかに早くみつけるか、いかに早く予防する展開をするかなどが求められている。介護保険計画は第3期の時、生活圏域で作るように言われて、同時に地域包括支援センターや地域密着型が作られた。「これからの地域福祉の在り方に関する研究会」で、地域福祉計画はひとつの自治体に1つであったが、1自治体1つではなく、地区別計画が必要であろうと言われている。この流れに沿って、東社協が方向転換した。

現在、いろいろな委員として呼ばれているが、総務省の新コミュニティ研究会では、小地域推進の検討がなされた。地域福祉推進基礎組織として一番下の単位をどうするかが重要になり、注目されている。地域を支えるという地域の中で地域の人たちが自分たちの地域をどう作っていくか？活動圏域の中でどう生活するかいずれにしろ、地域の中でどう作っていくかが重要である。集まる場所やコーディネーターが欲しいという意見が共通して出てきている。その中で練馬社協がどう活動していくか？

(3) 資料5「小地域福祉活動の取り組み事例」にもとづいて説明

(4) 補足説明(委員長から)

- ・ 横浜は来年から第2期の福祉計画になる。全地的に地域活動の地区単位は地区社協が18地区ありに、そこをベースに小地域活動をやっているという動きである。ドリームハイツに住民で組織された団地自治会など例外はあるが、連合町内会と地区社協の地域が一致している。地域ケアプラザがずれていてそれぞれがうまくかみ合わない、どう整合性をつけていくかが課題である。ケアプラザは145でケアプラザが2か3の地区社協をみる。
- ・ 立川は第1期が来年度で終わる。1地区に配置したコーディネーターの評価が高い。コーディネーターとして住民の市民専門家を地域で育てるか、有給で専門職を置くか両方ある。いずれにしろ地域でコーディネーションをする人は必要だと考えはどこも一致する。一概にどちらがいいかは悩ましい。地域のある活動に特化した人は、新採の人材より能力が高いこともある。
- ・ どういう方向でいくのか、社協の課題としてどう受け止めるのか、これからの練馬区社協の行く末を左右する課題である。すぐに決めるというわけではないが、これからの練馬区社協の行く末を定めることにもつながる。場合によっては、PTを作る必要があるか？
- ・ 11/22・23 全社協  
社協アクションプランを提案した。内容は、住民の地域活動を支援するためのアクションプラン。
- ・ 安心と希望の介護ビジョン(梶添厚生労働大臣)  
いろいろな形でコーディネーション機能を持ったコミュニティワークコーディネーターの設置が言われた。
- ・ おさらいさせてもらいたい。  
資料2 練馬は先端的なことをやっているということか？  
両方やっているということ。
- ・ 毎年新しいニーズが出てくるとすると、袋が広がってふくらんでしまうのではないかと？老人社会対応戦争が起きているのではないかと。町会や地域のいろいろな人をなんでも巻き込んでいく必要がある。それをするのが、社協と考えればいいのか？  
高齢者だけでなく、障害や児童など全部が対象である。中福祉中負担が、このままでは、小福祉中負担になってしまう。市民が動いた方が効率的なことは行政のサービスを使うのではなく、身近なところで支援することが必要である。近所で見れば、予防や早期発見にもつながる。
- ・ 町会長になった。役所から社協や何やら書類がたくさんくる。町会は役所の下請け。町会がやっていることを役所が全部やったら財政がすぐにパンクする。町会のリーダーが意識変革する必要がある。中核となるものが必要。彼らが生きがいを感じることである。
- ・ 連合町内会=地区社協というところもある。いろいろな形態がある。町会、民生委員協議会、Dグループの人たちなど、地域でキープ-ソンの人、動かしやすい形が研究されなければいけない。うまくできないと地域がつぶれていってしまう。どういった人の中で作っていくかが、課題となる。
- ・ 今の日本はまだ袋がパンクするまでいっていない。

- ・ 一番大変なのは都市部である。都市部は、15年から20年で高齢者数が50%あがる。今の地方は負担3・5割で100もらうが、都市部は負担100で100もらう。都市は自分でやっていかななくてはいけない。その時に備えてどうしていくかが問題である。北欧は日本の倍の税金を払っていても、苦しくなっている。日本はどのような選択をしていくべきかを判断材料を集める必要がある。
- ・ 昔のような地縁血縁から、現在は知識の「知縁」となっている。仲間作りのグループをつなげていく方法でないとダメなのではないか？  
両方あると思う。テーマ型の組織が重層的に絡み合っただけでプラットフォームをつくる。全社協では、課題ごと、テーマごとに乗っていくプラットフォーム形式を提案されている。両方乗れる方式が良い。
- ・ リーダーの問題だと思う。町会だってリーダーの考え次第であり、暗中模索だけれどやらなければ変わらない。今はリーダーがいない。物離れの時代で心の時代である。自分たちが変わってリーダーが変わらなければいけない。
- ・ リーダーは大事である。現在は、有給のコーディネーターが必要。隣は何をする人ぞの時代では、有給のコーディネーターでなければコントロールできないであろう。地元の人でできるようになるには、よほどの意識改革が必要。地域のかたまりを動かすのは非常に難しい。
- ・ 千葉県の市川市は、47万人に3人の有給のコーディネーターがいて、14の地区社協の市民コーディネーターの相談やスーパーバイザーとして機能している。いろいろな形があり、どういう形をとるかは「人(人材)」にかかっている。これらのことが、今後の大きな検討課題。次期の活動計画に向けて、委員の皆様にはいろいろなお知恵をいただきたい。

## 7. 次回の推進評価委員会に向けて

次回委員会に向けて、「次回の報告内容をどのようにするか」計画改定にむけてご意見をいただきたい。

- ・ 報告としては、本日の3・4・5と区の計画の進捗報告、6をどうするかを区と社協で相談を進めていく。区の計画が確定したら、何らかのレスポンスが必要である。
- ・ 地域福祉計画改定では、地区社協の検討という形になると思うが、次期の計画で形としてみえてくればと考える。
- ・ 社協が地域福祉活動計画を作っていくのに「資料2」はいい。活用できるのではないかと。  
若年性認知症の例のように、ニーズを捉えて社協の動きとして形となり、区の施策につながるようになればいい。  
地域コーディネーターについては、誰もが同じことを言っていて、見守りボランティアや民生委員、町会(組織率50%に満たない)、災害援護者でも周りで見てもらう人がみつからないなど、いろいろな仕組みがあるが、それぞれがみな縦の仕組みとなっていて、縦だけの現状をどう横につなげるか?が必要であるというけれど、実際にどうすればいいのかということのイメージがでてこない。社協が活動計画を現実的なものとしてドッキングしていくことができるか?地区社協の検討のなかで考えて詰めていって欲しい。
- ・ そこを受けて社協でPTを立ち上げ、調査などして練馬ではどんな形でできるのかを探る。
- ・ 隣近所がうまくいっていかないとダメ。人間関係がうまくいかないとどんなものを立ち上げてもダメ。そういうことも踏まえて、考えて言って欲しい。
- ・ 個人情報保護法は問題と感じている。  
木を囲むと困るという漢字になる。人を囲んでも同じことが言えるのではないかと?

次回推進評価委員会日時：平成21年3月2日(月)18:30～練馬ボランティア・市民活動センター会議室